土質ボーリング柱状図(標準貫入試験)

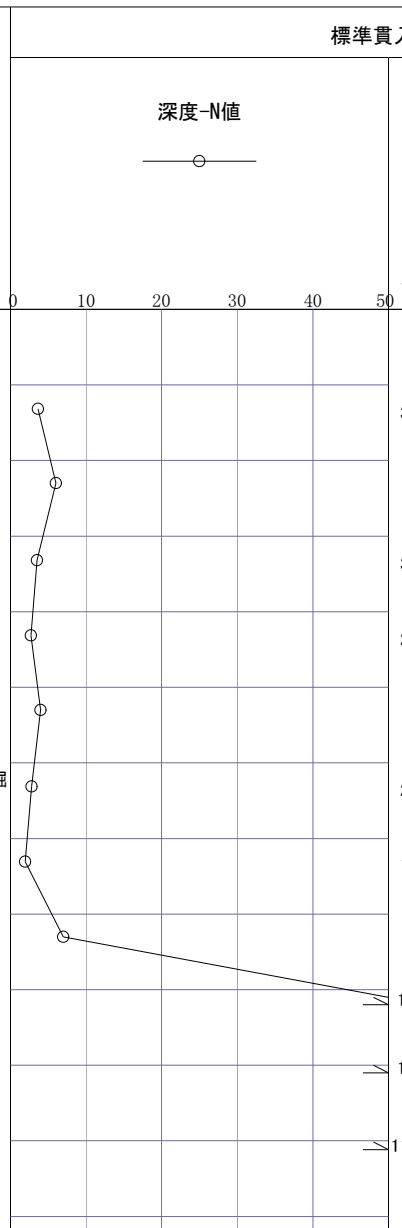
調査名　興隆寺 第１号　興隆寺農家レストラン測量・地質調査・設計業務

事業名または工事名

調査目的及び調査対象　建築 構造物基礎

ボーリング名	Br.NO.1	調査位置	淡路市興隆寺 地内			北緯	34°29'10.4192″
発注機関	合同会社 興隆寺			調査期間	令和4年2月21日～令和4年2月23日	東経	134°55'30.2220″
調査業者名		主任技師	地質調査技士 登録番号	現場代理人	地質調査技士 登録番号	コア鑑定者	地質調査技士 登録番号 第11020号
						ボーリング責任者	地質調査技士 登録番号 第11020号
孔口標高	GH 228.33 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方位	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°
総削孔長	11.18 m					使用機種	試錐機：カノーKR-100H-2 / エンジン：ヤンマーNFD10-K / ポンプ：丸山 MS-510

標尺 m	標高 m	深度 m	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層・岩体区分	孔内水位 m 測定月日
	228.23	0.10		表土		暗褐					
1						淡赤灰褐			含水中位 真砂土系土砂の盛土 φ5mm～10mm程度の礫混じる	盛土	
2						淡赤灰褐			全体にゆるく、一様な状態		
3											2/21
4	223.93	4.40		盛土(礫混じりシルト質砂)		赤灰褐色					
5	223.03	5.30		砂質粘土		灰褐			含水中位 粗砂まばらに混入	沖積層	2/22 5.90 無水掘
6							rd2		谷底堆積土 含水中位、GL-5.9m以深、含水大 中・細砂主体 細礫・粗砂まばらに混入 所々シルト分含む		
7	220.53	7.80		礫混じり砂		暗青灰	rd1		GL-7.5m付近、φ50mm程度の亜円礫混入		
8	219.98	8.35		シルト質砂		黒灰	rd2		含水中位～大、微細砂分多く含む φ5mm程度の礫まばらに混入		2/22
9									等粒状組織は見られるが、鉱物粒子は風化作用を受けている 粒子径は、φ5mm～30mm	基盤岩	
10									おおむね一様に風化しているおり、深くなるほどほぼ硬くなる		
11	217.15	11.18		風化花崗閃緑岩		暗赤褐					2/23
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											



標準貫入試験 N値	深度 m	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈の貫入量
3.6	1.15 / 1.48	1	1	2 / 130	4 / 330		
6	2.15 / 2.45	1	3	2	6 / 300		
3.5	3.15 / 3.49	1	1	2 / 140	4 / 340		
2.7	4.15 / 4.48	2 / 150	1 / 180		3 / 330		
4	5.15 / 5.45	1	2	1	4 / 300		
2.8	6.15 / 6.47	1	1	1 / 120	3 / 320		
1.9	7.15 / 7.46	1 / 200	1 / 110		2 / 310		
7	8.15 / 8.45	2 / 140	1 / 60	4	7 / 300		
150	9.15 / 9.25	50			50 / 100	100	
150	10.05 / 10.15	50			50 / 100	100	
115.4	11.05 / 11.18	36	14 / 30		50 / 130	130	

試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				2/21
				2/22
				2/23

土質ボーリング柱状図(標準貫入試験)

調査名　興隆寺 第１号　興隆寺農家レストラン測量・地質調査・設計業務

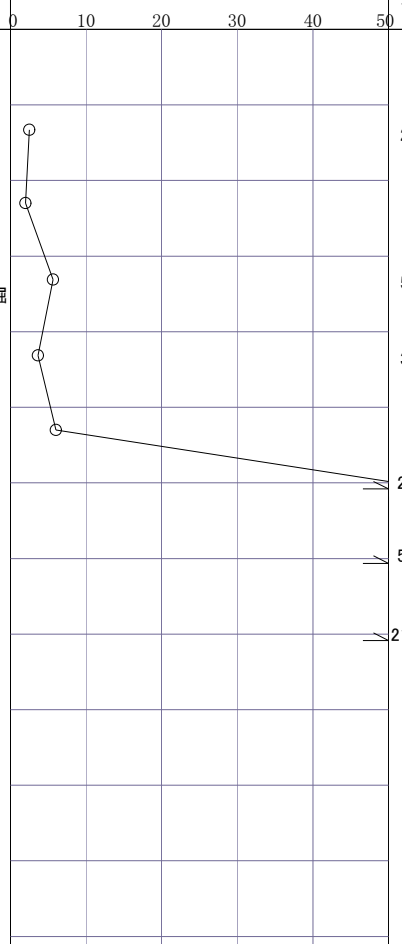
事業名または工事名

調査目的及び調査対象　建築 構造物基礎

ボーリング名	Br.NO.2	調査位置	淡路市興隆寺 地内			北緯	34°29'10.7870″
発注機関	合同会社 興隆寺			調査期間	令和4年2月24日～令和4年2月25日	東経	134°55'30.0216″
調査業者名		主任技師	地質調査技士 登録番号	現場代理人	地質調査技士 登録番号	コア鑑定者	地質調査技士 登録番号 第11020号
						ボーリング責任者	地質調査技士 登録番号 第11020号
孔口標高	GH 228.50 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方位	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°
総削孔長	8.12 m	使用機種	試錐機	カノーKR-100H-2			
			エンジン	ヤンマーNFD10-K	ポンプ	丸山 MS-510	

標尺 m	標高 m	深度 m	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層・岩体区分	孔内水位 m 測定月日
1 2	226.00	2.50		盛土(礫混じりシルト質砂)		赤灰褐			含水中位 真砂土系土砂の盛土 GL-1.0mまで非常にゆるい状態(コアー圧縮される) φ5mm～10mm程度の礫混じる GL-1.5m～GL-1.9m、黒褐色のシルト分主体 全体にゆるい地盤状態	盛土	
3 4	224.30	4.20		砂		灰褐	rd2		谷底堆積土、GL-2.5m～GL-2.55m、炭化した植物片 含水中位～やや大 中・細砂主体 細礫・粗砂まばらに混入	沖積層	2/24 3.20 無水掘
5	223.15	5.35		砂質シルト		暗灰		rc2 rc3	含水中位 微細砂含む GL-4.9m付近、粗砂層挟む		
6 7 8	220.38	8.12		風化花崗閃緑岩		赤灰褐			等粒状組織は見られるが、鉱物粒子は風化作用を受けている 粒子径は、φ5mm～30mm おおむね一様に風化していおり、深くなるほどほぼ硬くなる 所々硬く、円状・片状コアとなる GL-7.7m以深、ダイヤモンドビット使用	基盤岩	2/24 2/25

標準貫入試験



N 値	深度 m	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈の貫入量
2.5	1.15	1/150	1	1/110	3/360		
2	1.51 2.15	1/150	1/150		2/300		
5.6	2.45 3.15	2	2/120	2	6/320		
3.6	3.47 4.15	1	1/80	2/150	4/330		
6	4.48 5.15 5.45	1/150	1/50	4	6/300		
250	6.05	50/60			50/60	60	
500	6.11 7.05	50/30			50/30	30	
214.3	7.08 8.05	50/70			50/70	70	
	8.12						

試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				2/24 2/25